

第5回日本家族社会学会

日本家族社会学会の第5回大会が1995年9月13日(水)、14日(木)の両日にわたって、千葉市の淑徳大学において開催された。今回森岡清美会長に代わって正岡寛司会員(早稲田大学)が総会において2代目の会長として選出された。また、第3回大会から継続的に報告、討論されてきた「全国家族調査」が学会として本格的に始動することが承認された。

第1日、第2日の午前に自由報告が8題、テーマセッション3つ、第1日、第2日の午後にそれぞれひとつ、計2つのシンポジウムの報告、討論が行われた。とくに、今回「全国家族調査」の予備研究的な性格を持つシンポジウム「日本における縦断研究の方法と課題」で、人口問題研究所の「出生動向基本調査(旧出産力調査)」について報告があり、その成果と課題について、報告者、参加者の熱心な討議が行われた。これは人口問題研究所調査への高い関心を示すものでもあろう。

本研究所からは廣嶋清志、渡邊吉利、若林敬子、小島宏、西岡八郎が参加し、廣嶋、小島の2氏が発表をした。セッション報告、シンポジウムのテーマ、および二人の報告は以下のとおりである。

テーマセッション;

- 1 「わが国における国際結婚とその家族をめぐる諸問題」
- 2 「未婚期の長期化と親子関係」
- 3 「日本の家族と地域性—その3 超高齢化社会に向けて」

シンポジウム;

- 1 「日本における縦断研究の方法と課題」
- 2 「家族社会学の新しい地平—社会階層と家族」

小島宏、「家族政策の基本原則に関する国際比較」(自由報告)

廣嶋清志、「未婚の長期化と家族形成」(セッション報告2)

(西岡八郎記)

経済統計学会第39回全国総会

経済統計学会第39回全国総会は、1995年9月20日(水)、21日(木)の2日間にわたり、北海学園大学を開催校とし、同校内の国際会議場で行われた。今回は『統計学』69, 70合併記念号執筆関係報告—2つのシンポジウム(「統計学の課題」および「統計解析」)、「部門統計」(社会統計、人口統計、環境統計や労働統計等)並びに「統計利用」—を中心に19の報告が行なわれた。人口に関連する報告は以下のとおりである。

報告者

論 題

西村善博(大分大学)

「人口問題と統計」

廣嶋清志(厚生省人口問題研究所)

「日本の人口統計の現状と課題」

「人口問題と統計」では人口の高齢化の問題に限って、最近10年間のサーベイが行われ、今後の課題の提示がなされた。その中で、最近行われた高齢化の要因分析や出生率低下の要因分析から、今までの通説とは異なる結果が出されている事や日本の将来推計人口がもつ重要性の故に、推計値の大幅修正が各方面に与える影響が指摘され、人口推計の限界の検討や必要に応じて代替推計の提示が要請されるとしている。地域人口の将来推計では、社会移動の推計が依然として課題であり、また、最近の出生率低下の分析結果がどの程度の小地域まで適用可能かについて検討が必要である。高齢化と雇用・就業問題では21世紀初頭の労働力減少に向けて、今から社会経済システムの構築を準備する必要性や、社会保障統計分野における社会保障費の将来推計の継続の必要性が指摘されている。

「日本の人口統計の現状と課題」では、人口問題に関わる側面を中心にして、人口統計に関する課題の指摘が